

科目名称 (Course Title)				担当教員(Instructor)	
監査論				吉田 周邦	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
前学期 (隔週開講)	2 単位	3 年次	講義	無	無
授業の概要 (Course Description)					
<p>金融資本市場における社会的な枠組としての監査につき、そのグローバルな歴史的発展の経緯、現在の監査制度、監査計画から監査意見形成までのプロセスを概括的かつ事例をとりいれつつ、具体的にやさしく解説する。次回の講義内容に関する課題を出題し、その課題につき学生間・学生と教員間でのディスカッションを重視する。また、小テスト・中間テストを随時実施する。また、PPT資料をもとにして論述し、適宜参考書と資料（監査基準等）を参照しつつ講義を進める。</p>					
授業の到達目標 (Course Objectives)					
<p>会計専門職(公認会計士等) やアナリストを目指す学生だけではなく、企業経営や、企業内容開示、内部統制制度の整備運用、投融資、コンプライアンス等の企業管理業務に将来責任ある立場で携わることになる学生が、ビジネスパーソンとして「監査報告書」を利用するための監査論の基本的な枠組みつき理解することができる。</p>					
授業計画 (Course Schedule)					
第 1 回	監査の意義と機能、「オリエンテーション」				
第 2 回	海外と我が国における監査の歴史（監査の創成期から国際監査基準まで）				
第 3 回	監査制度（金融商品取引法、会社法その他）				
第 4 回	監査の成果物としての監査報告書（概観レビュー、監査意見・二重責任の原則・独立性等）				
第 5 回	監査のプロセス1.（監査計画）				
第 6 回	監査のプロセス2.（監査実施：リスクアプローチについて）				
第 7 回	監査のプロセス3.（監査実施：監査上の重要性、確認）				
第 8 回	監査のプロセス4.（その他の監査手続）				
第 9 回	監査のプロセス5.（監査意見形成と監査報告書：適正意見、除外事項、追記情報等）				
第 10 回	内部統制報告制度における内部統制監査				
第 11 回	会計不正と監査対応				
第 12 回	企業破綻と監査対応（継続企業の前提に関する検討）				
第 13 回	実例演習1.（リスク評価と実証手続等）				
第 14 回	実例演習2.（虚偽表示の事例等）				
第 15 回	全体の総括・期末試験				
授業時間外学習 (Supplementary Activities)					
<p>次回講義に関する課題を、自ら調べレポートにまとめる作業をすること。</p>					

成績評価の方法と基準(Grading)	
評価方法 (割合)	評価基準
中間考査・期末試験点(60点) 課題レポート提出・発表 (40点) TOTAL (100点) 中間考査・期末試験の合計が 50点未 満(100点満点)の場合、単位を付与し ない。また、4回以上欠席の場合、単位 を付与しない。	秀：100点 - 90点 優：89点 - 80点 良：79点 - 70点 可：69点 - 60点 不可：59点 - 0点
テキスト (Textbook)	【書名】 【著者】 【出版社】 【出版年】
参考書・資料等 (Supplementary Reading)	監査報告書の読み方 蟹江 章 著 (創成社) 監査法規集 (中央経済社)
備考 (Other Information)	「簿記論」「財務会計論」の受講または同等程度の 財務諸表論(会計学)の知識があることが望ましいが、 そのような基礎的知識が充分でない場合でも理解で きるように、講義をすすめる。
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	メールによる予約もしくは、教務を通じて連絡。